

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名 常田保育園

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着眼点	コメント	
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	<p>○常田保育園では、パンフレットや契約時の重要事項説明書において、運営方針をはじめ、基本方針・理念が明記されていました。また、保育園のパンフレットに、保育内容の特色として、保育の姿勢や地域との交流先が具体的に記載され、五感に触れる体験活動に力を入れ、地域に根ざした信頼される保育所を目指していました。</p> <p>○保育園の願いの最後の一文に、「子どもを真ん中に保育園の保護者が手をつないで、一緒に育つことを目指します。」と、家庭との連携を図り、温かい家庭で過ごせるような支援も担っている保育者集団を目指していました。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>○保育園舎は、平成26年に新園舎として建築され、外観はもちろん内装も木のぬくもりを感じられる木造建築になっていました。特に、外観から感じられる木造の渡り廊下や遊戯室窓際に設けられた観覧席は、素晴らしい設計となっていました。</p> <p>○0～1歳児の部屋は床暖で、冬は温かく、夏の暑い日も全館エアコンが設置されて、常に適切な環境が整っていました。</p> <p>○トイレは、常に清潔に使用できるように掃除用具も棚の上方に整備され、広々となっており、死角になりがちな箇所には、ミラーが設置され、自立を重視しながらも常に保育士が見守って、支援されている様子が伺えました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 		<p>○園児一人一人の発達状況を把握して、日々の様子を見極め、子どもからの言葉や要求、サインを受けとめて、「～なら出来る。楽しく安心して過ごせる。」と前向きに子どもを理解し、保育を工夫している様子が伺えました。</p> <p>○子ども達の声が響き渡り、のびのびとアットホームな雰囲気の中、穏やかに接している保育士の対応がみられました。子ども達の思いに沿った適切な対応がとられていました。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 		<p>○食事、排泄、お昼寝、着替えなど、各年齢に沿った、また個々の発達状況に即した生活習慣の習得に心掛けて、保育している様子が伺えました。</p> <p>○特に2歳児のみのクラス編成で、排泄の自立に向けて配慮された保育に心掛けている様子が伺えました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○色々な体験が出来るように、音楽療法士を招いたり、専門の講師による水泳・体操教室を定期的に開催していました。</p> <p>○個々の成長に伴った生活習慣を身につけられるように、死角になるトイレにはミラーを設置し、自分で出来る力を見極め、自主性を重んじた急がせない保育に心掛けている様子が伺えました。</p> <p>○年齢に沿ったクラス分け以外に、異年齢で編成された「なかよしグループ」を作って、大きい子どもが小さい子どもの面倒をみたり、大きな子どもの遊びに刺激を受けたり、相互の関係から育ていけるクラス編成を、毎年3歳以上児でグループینگされていました。</p> <p>○創造性がふくらむ素材や、廃材等を遊びの環境におき、子ども同士での関わりを大切に活動できるように配慮されていました。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○24時間記録できるノートを準備して、保護者と連携して、情緒や体調の安定が図れるように工夫されていました。</p> <p>○産休明けからの乳児を預かり、保護者との信頼関係大切に、お子さんの個人差に考慮し、自我の芽生えを大切に考えて日頃からの話しかけに心掛け、情緒豊かな子どもに育つように保育されていました。</p> <p>○0歳児は、パーティションで部屋を繋げたり仕切ったりし、赤ちゃんから歩き始めのお子さん、個々の発達の差が大きい時期なので、安全性に配慮した保育に心掛けていました。</p> <p>○ベビーサークルが、カーテンで仕切られた奥に配置され、安全面からも目の行き届く保育に心掛けている様子が伺えました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a) <ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中を立ちをけている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	○3歳児未満の園児は、同年齢で編成されたグループで、毎日ゆったり過ごせるように、部屋を広げて保育されていました。特に安全面に考慮して、自由に活動できるような空間で、友だちへの興味を膨らませられるような工夫がされていました。 ○遊具は、衛生面、素材や大きさに配慮して、自発的に遊べるように安心した環境が整っていました。 ○特に2歳児は、仲間意識を高められるように、また生活習慣の自立に向けての保育に心掛けるように、2歳児のみの部屋で毎日の繋がりを大切に保育されていました。
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a) <ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	○年齢に沿ったクラス分けと別に、異年齢児で編成された「なかよしグループ」を作り、同じ空間で1年間食事を摂ったり、遊びなどの生活を共に過ごして、異年齢児間で相互に学び、助け合い、幅広い人間関係作りを育めるような取り組みを行っていました。 ○運動や制作などの活動においては、同年代での発達や興味を大切に進められるように、運動会や発表会の行事に臨んでいました。特に3歳以上の園児は、各家庭で作った雑巾で、 クラスの保育室 や廊下の雑巾がけを毎日行っていました。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>○同法人では、先駆的な「統合保育」上田いずみ園を運営されてきました。定期的上田いずみ園と交流を図り、健全なお子さんも障がいのあるお子さんも、共に生活する大切さや差別のない社会を創る人間を育てたいという理念を掲げて、特に障がいのあるお子さんに理解のある歴史ある保育園を創られています。</p> <p>○障がいをお持ちのお子さんには、保護者との連携を図り、その子の課題に沿った丁寧な対応に心掛けていました。</p> <p>○障がいの特性を家庭と保育園が共有できるように園長は、通院に同行して情報の共有を図り保育に繋げています。</p> <p>○障がいのある子どもには、保育課や保健師との連携がとられていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			<p>⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	<p>○連絡ボードや会議で、延長保育職員と情報を共有出来るように配慮されていました。</p> <p>○日中過ごされた様子を延長保育担当職員に引き継ぎ、保護者への伝達に心掛けていました。今プールの遊びなども共有できるように、伝達してました。</p> <p>○長い時間の延長保育では、子どもが少なくなってくると、子どもは不安になるが、保育士同士(日中との)情報の共有を行ない、不安のない保育を心がけていました。</p> <p>○異年齢児のため、子どもの様子を見守った保育を行なっていました。</p>
			<p>⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子ども生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	<p>○小学校(東)との交流は、10月に小学生が遊びを考えて来てくれる交流会、音楽会、プール等で交流が行なわれ、中学1年生の職場体験も受け入れていました。</p> <p>○小学校との連携は、個々の地域にあった取り組みが行なわれていました。</p> <p>○園長・校長先生の会議は、年に3、4回行なわれて、色々な課題についても話される機会が定着していました。また、幼・保・小の連絡会が開かれ、就学に向けた支援が綿密に話し合われていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○「重要事項の説明と保育園生活について」において、登園するにあたっての健康状態と明記され、「毎朝の検温をお願いします。」と太字にして、特に未満児は連絡ノートに記載するように謳われていました。「保育園は集団生活ですの」と改めて明記されて、「朝の健康状態の把握のためにお願いします。」と、謳われていました。</p> <p>○感染症や怪我、事故を防ぐために、防災対策等が入園の際の契約時の重要事項説明書に明記されて、感染症のインフルエンザについては、登園の許可書は「登園届」として、保護者が記入して提出するようになっていました。</p> <p>○特に乳幼児保育においては、家庭からの日々の情報をしっかり聞き取り、SIDSに関しての配慮として、睡眠時の様子は常に把握されて呼吸の確認を行っていました。</p>	
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○身体測定は、毎月行ない、からだの異変や健康状態の把握を行っていました。</p> <p>○歯科検診は、保育園に歯科医師が訪問して年2回行なわれ、家族も年1回は同席して、お口の健康に配慮されていました。</p>	
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○食物エネルギーをお持ちのお子さんについては、入園時の際に「アンケート調査」に記入したものと、医師の「アレルギー生活管理表」を添付して提出してもいい、対応されていました。その後も、年に1回の受診を促し、半年に1度栄養士との話し合いをもち、指示書の更新を行ない、変更の際は、まず家庭で食事を試してもらうなど、慎重な取り組みが行なわれていました。</p> <p>○職員の朝会の際に、今日のメニューやアレルギー食があるかなど、職員全員で把握して、他の園児とのトラブルがないように保育士全員で周知を図っていました。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 		<p>○保護者アンケート結果では、食事のメニューの充実に、ほぼ全員の方が満足されていました。</p> <p>○年齢別の仕切りを取り外し、3歳以上児は、一同で食事を楽しんでいました。豊富な種類の食材を使われ、薄味で美味しく、子どもたちはお替わりをしていました。毎回残飯は確認できないと、報告を受けました。</p> <p>○食育に関しては、園庭横の畑で、大根、ジャガイモ、キュウリ、インゲン、ナス、ピーマン、イチゴ、赤しそなどの収穫を行ない、子どもたちの食事に提供されていました。また、近くの信州大学の畑で、サツマイモ作りが行なわれていました。</p>
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 		<p>○自園食で、温かい食事が出され、献立には子どもが食べやすく、興味のある食事が提供されていました。</p> <p>○残飯調査は、行なわれていますが、「殆んどない」と一緒に食べていた栄養士さんが話されていました。</p> <p>○栄養士、調理師は、衛生面・栄養面等食事についての会議を定期的に行っていました。</p> <p>○献立表は、調味料をはじめ、1日の食材名が細かく記載され、保護者にも配布されていました。</p> <p>○食事は、園で作った物を食育として利用していました。</p> <p>○家庭では、保育園の食事について、話題になるように楽しい献立表が配布されていました。また、子どもたちは家庭の協力を得ながら、調理実習も行なっていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	■ 104	連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。	○家庭との連絡は、日常的な事は連絡帳で、「常田保育園だより」では、2か月分の行事予定を記載し、詳しい行事予定は、前日前から、各クラスの入り口にホワイトボードに記載するなど工夫されていました。 ○連絡ノートに記載された意見や要望は、園長や主任保育士に伝えて、解決に向けた対応がされていました。必要に応じて、職員会議で全職員に周知を図っていました。
					■ 105	保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。	
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	■ 106	様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。	○日々の連絡帳や、登園・降園時に保護者への引継ぎ等で、信頼関係を築いています。保護者のアンケート調査結果では、「一人一人の事を考えて、手厚い保育に感謝している」との意見が多く寄せられていました。 ○一時預かり保育や、子育て支援事業として、ポッポ広場やどんぐり広場を毎月開催して、子育ての相談や季節にあった遊びを親子で楽しめるような企画を開催していました。 ○前年度の事業報告では、重点目標の振り返りとして、一人ひとりの子どもと保護者を受容し、信頼関係を大切にした保育を旨とすとして、日頃から保護者一人一人に対し、受容的関わりを丁寧に行なっていました。
				■ 107	家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。		
				■ 108	日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。		
				■ 109	保護者等からの相談に応じる体制がある。		
				■ 110	保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。		
				■ 111	保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。		
				■ 112	相談内容を適切に記録している。		
				■ 113	相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着点	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a) <ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 ■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	○「虐待所見のポイント」を参考に保育士は、子どもの様子を観察されていました。 ○法人の規定に基づき、園では、虐待チェックシートを活用し、フローチャートシステムに従い、記録がされていました。虐待の疑いがあるときには、主任保育士・園長に連絡し、行政と連携し、虐待に対応されていました。 ○園長は、家庭と職員の虐待に注意を計らい、対応されていると職員から聞き取りができました。 ○虐待のマニュアルやチェック表は、整備され、対応されていました。職員の聞き取りで、日常的に気づきがあった時は、同僚や園長に連絡し、対応すると話されていました。
	3 保育 の 質 の 向 上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a) <ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 ■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	○事業所計画書で「重点取り組み」を毎年掲げて、保育計画を見直すことから改めて行ない、年度末には振り返りを行った様子がしっかり事業所報告書として記載され、園内研修を通して自己研鑽に努めている様子が伺えました。 ○保育士は、日誌に自己評価の記録を行ない意識の向上に繋げていました。